

名和内科・巣南リハビリセンター 広報誌「清」

SAYA

2025 MAY Vol.15



業務内容の見直し・効率化に取り組み、
より良い介護サービスの提供を目指します！

巣南リハビリセンター 生産性向上委員会

岐阜清流病院 広報誌「清」

SAYA

2025 MAY Vol.15



岐阜清流病院 新入職員



南側は広々としたテラス



病室+家族室(和洋室)



インタビュー動画は
こちらからご覧いただけます

SPECIAL INTERVIEW VOL.15

緩和ケア病棟

日本では2人に1人ががん罹患し、4人に1人ががんで亡くなるといわれています。がん患者さんなどが入院の対象となる岐阜清流病院の「緩和ケア病棟」について聞きました。

最期まで 自分らしく生きる

診療部長・
緩和ケア病棟医長

越路 正敏 医師

緩和ケア病棟看護部長・
緩和ケア認定看護師

飯沼 温美 看護師



ボランティア
コーディネーター
松井 有香理

Q 岐阜清流病院の緩和ケア病棟の特徴は何ですか？

飯沼…患者さんやご家族の時間・空間を大切にしていたため、個室になったりしています。病棟南側は広々としたテラスになっており、部屋からテラスに出て日光浴や散歩をすることもできます。また、病棟内には台所やお風呂、ご家族がくつろげる家族控室もあります。

越路…従来からある家族控室は患者さんの病室と離れていましたので、今回ご家族と常に近くにいられる空間を提供したいと思い、特別な個室

を作りました。病室と家族部屋がながっており、すぐそばにご家族の存在を感じられることで患者さんの心の安定に役立っていると思います。また、当院の緩和ケア病棟は岐阜県でいちばん歴史のある緩和ケア病棟です。ケアを必要とする患者さんへのノウハウが蓄積されている点も大きな特長と考えています。

Q これまでに印象に残った出来事はありますか？

越路…緩和ケアは季節の行事を大切にしているので、私もサンタなどいろいろなものに扮装させられます。患者さんの笑顔が見られたり、ユーモアのある言葉をいただけて人柄を知れたり、私自身も楽しめています。以前循環器内科にいた時は、病気を治すことがいちばんであり、どんな患者さんでも「その人」というよりも「病氣」を中心に見ていました。しかし緩和ケアでは、「がんという疾患をもった一人の患者さん」という風に、その人個人を見るよう、私自身の見方が変わってきたように思います。

飯沼…先生の扮装はとても人気で、患者さんも喜ばれて、いつもうらやましいなと思っています。痛みのコントロールが難しく普段眉間にしわを寄せているような患者さんが、行事の時には痛みを忘れて笑顔になることもあり、笑顔は何にも勝る薬だなと感じ

Q 「緩和ケア病棟」とはどのような病棟ですか？

越路…対象患者さんは、がんやエイズの疾患を持つての方となります。疾患を治すことが目的の病棟ではないので、抗がん剤などの薬剤治療や放射線治療は行いません。痛みや苦痛を和らげ、よりよい生活をしていただくための病棟となります。

飯沼…以前の緩和ケア病棟は、最期の時を過ごす場所と思われてきましたが、最近では在宅医療も進み、患者さんが望む場所で過ごせるようになってきています。入院後、最期までこちらで過ごすことも可能ですし、望まれば退院調整も行います。社会的に核家族や老々介護も増えており、長期に家で過ごすことが難しい患者さんでも、家と病院とを行き来して過ごしていただけるような対応もしています。

Q 具体的にはどんな治療やケアが行われますか？

越路…緩和ケアはチーム医療です。医師の立場では、痛みや苦痛を和らげるための投薬や穿刺などを行います。また、時には精神科医による傾聴や精神的な分析も踏まえて方針を決定します。

飯沼…病棟では、管理栄養士、リハビ



越路サンタからのプレゼント

じます。病気がなったことは悲しいですが、例えばバラバラに住んでいるご家族が入院を機に同じ時間を過ごしたり、何十年ぶりに誕生日をみなどお祝いして涙ぐんでいる姿などを見ると、同じ空間にいる私も幸せな気持ちになります。また、私自身、ご飯がおいしく感じることや人の手を借りず自分の力で歩けることなど、何気ない日常が尊いものに感じるようになってきました。

緩和ケア病棟では、患者さんの日常生活風景や行事の様子をブログで報告しています。当院HPに掲載していますのでぜひご覧ください。



Q 今後の課題や展望について教えてください

越路…在宅での緩和ケアが進んだ現在では、以前に比べて我々が患者さんと関わる時間が短くなっています。人と人として醸成していける時間が

リレーションスタッフなどいろいろな職種の力を借りてチームでサポートを行います。また医療従事者ではありませんが、ボランティアさんもチームの一員として患者さんの心を和ませる役割を担っています。

越路…緩和ケアは一般病棟よりもチームの中で医師以外のスタッフの力が大きいと感じます。個々の役割が力を発揮し、患者さんが穏やかな日々を過ごすのに役立っています。

Q ボランティアさんの活動内容を教えてください

松井…病棟に季節のお花の展示をしたり、音楽広場での楽器演奏、お部屋に訪問してのアロマテラピー、フットセラピーなどを行っています。在宅で折り紙やカレンダー作成などをすることもありますし、イベントのお手伝いなど、活動は多岐に渡ります。

Q ボランティアさんの採用している理由は？

松井…医療従事者でない、エプロンをつけたボランティアさんが関わることで病棟の雰囲気や和らげ、外の風を運んでくれます。患者さんがボランティアさんと触れ合っている時は、おそらく「患者さん」ではなく「その方ご自身」に戻っているのではないかと

少ないため、今後どのように短い時間に関わっていくか、試行錯誤しつつも見つけ出していかなければならないと思っています。医療の心を表す言葉として『治すこと時々、和らげること』とすれば、慰めることいつも」というものがあります。やはり医療の原点は病める人を癒すことです。薬を使って苦痛をとることも大事な要素ですが、それには心がついてこないとならないと思っています。患者さんやご家族から「ここへ入院できてよかった」という言葉をいただけるような緩和ケアを行っていききたいです。

飯沼…私たちにとって「ここにきてよかった」はいちばんの賛辞であり、そう言っていただけのように、日々努力していきたいです。私個人としては、患者さんにひとときでも笑顔になっていただきたい、病人としてではなくその人自身として病氣のことを忘れる時間が作れたらなと思っています。

越路…デイルームにいる患者さんは病室にいる時と表情が違って、きつと病室だと「自分が病人なんだ」って思ってしまうけれど、ここへ来ると今までの日常生活の雰囲気や味わえて自然と笑顔になるんですよ。こういうことは続けていかなくちゃならないと思っています。

飯沼…頑張りましたよ、先生！
越路…頑張ろう！

TEAM SEIKOUKAI

清光会グループで活躍中のスタッフを紹介します！



●心臓リハビリテーション指導士を目指したきっかけ

心臓リハビリテーション指導士の資格を持つ医師と出会い、自分なりに調べていくうちに興味深い分野だと感じ、専門知識を身に付けたいと思い、資格取得を決意しました。運動分野だけでなく、薬や病態なども勉強をする必要があり、とても大変でしたが無事に合格しました。

●心臓リハビリテーションとは

この言葉を聞きなれない方も多いと思います。心臓を思うと倦怠感や息切れなどが生じやすく、日常の活動量が減少し、体力に自信がなくなる方が多いと思います。心臓リハビリテーションとは、このような方々が体力や自信を取り戻し、健康状態の改善や再発予防を目的として行う「総合的活動プログラム」のことです。生活指導（服薬指導・食事指導など）や相談（カウンセリング）に加え、中心となるのは運動能力向上・身体の調整を目的とした運動療法です。患者さん一人ひとりに合わせたプランを提供し、体力をつけることや再発予防、症状の改善を目指します。

●運動療法を行うことでどんな効果がある？

以前は心臓病を患ったら安静に過ごすように言われていました。しかし、今では適切な運動を行うことで心臓を養う血液の流れがよくなり、心臓機能を改善する効果がある

とわかってきました。息切れの改善、疲労感の軽減、体力の向上に加え、心臓病の原因の一つである動脈硬化の進行予防にも効果があり、再入院の予防や生命予後の改善にもつながることが科学的に証明されています。こうした理由から、現在は積極的に運動療法を取り入れています。

●効果的な運動療法とは

まずは、安全な運動メニュー「運動処方」の決定を行う必要があります。運動処方を決定するための検査が「心肺運動負荷試験（CPX）」です。この検査は、心電図・血圧計・呼吸分析用マスクを着用して、限界まで自転車を漕ぐ大変な検査ですが、どの程度の運動量であれば心臓に負担をかけることなく安全で効果的な運動（生活活動力や仕事などを含む）ができるかが分かります。

●今後の目標

検査結果や自覚症状などから患者さんごとに適した運動処方を考えるのは難しいのですが、とてもやりがいがあります。患者さんが最後まで自分らしく生活できるよう、今後も知識や技術を磨き、最善の支援ができるよう努めていきます。



CPX検査

私は2019年8月に岐阜清流病院から巣南リハビリセンターへ異動し、現在、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の3協会主催訪問リハビリテーション管理者養成講習会修了を活かし、岐阜清流病院で担当していた訪問リハビリテーションを引き続き担当しています。また、訪問業務の空き枠を利用して入所やデイケアのリハビリテーションにも入ることがあります。訪問リハビリテーションではご自宅に伺い、病状の観察、機能訓練、痛みの緩和、日常生活動作（ADL）の訓練、福祉用具の導入や住宅改修のアドバイスを行っています。要支援の方から要介護の方まで、年齢幅も広く、まずは自宅内での移動を安全に行っていただくこと、更には屋外歩行も実施しながら「活動と参加」に注力しています。入所の方やデイケアに通われている方には、機能訓練や歩行訓練を行っています。特に歩き方を見させていただき、どうすればより歩きやすくなるかのポイントを絞り、歩行の際の助言を行っています。ADL面のみならず、QOL（生活の質）の向上も意識しながらリハビリテーションを提供しています。

また個人的には岐阜県公認フィジカルトレーナーとして、国民スポーツ大会の重量挙げ岐阜県選手団に帯同しトレーナー活動も行いながら選手サポートを行っています。私自身も選手側の立場が理解できるように実際に競技を行い、全日本マスターズ大会で2度2位になりました。更に、名古屋の専門学校にて「がんのリハビリテーション」などの特別講義も担当させていただき、これからの時代を担う若い理学療法士の育成にも関わらせていただいています。

当施設も年齢的に若いリハビリスタッフが多く在籍しています。彼らには自分たちでできるだけ多くの新しいアイデアを出してもらっており、できることはどんどん実践してくれています。現在はほぼ全員が施設内でのリハビリ業務だけでなく、介護予防教室の講師を行えるようになりました。彼らの成長を誇りに思っていると同時に、今後の更なる活躍を期待しています。積極的に学会や研修会などに参加し自己啓発に励み、その知識・技術を利用者の皆さんに還元できるようリハビリスタッフ一同真摯に取り組んでまいります。



2024年11月

第35回 全国介護老人保健施設大会で「清流ぷらす」の取り組みを発表しました

2024年11月15日長良川国際会議場で開催された「全国介護老人保健施設大会」において、当法人施設「清流ぷらす」のこれまでの取り組みとその成果について発表しました。

発表の要旨(抄録より)

専門職が常駐する「通いの場」の介護予防効果について ～地域と繋がる交流施設『清流ぷらす』の取り組み～

地域包括ケアシステムにおける「生活支援・介護予防」を担う場所として、住民が気軽に通える「通いの場」が必要だとされている。当法人は約3年前に老健サテライト施設「清流ぷらす」を開設し、専門職が常駐する「通いの場」をスタートさせた。

今回、その介護予防効果を検証するため、利用者に主観的健康観の変化についてのアンケートを実施した。その結果、身体面(歩行・痛み・生活動作・睡眠等)、精神面(気分・意欲等)、社会参加(他者交流・地域との繋がり等)の全てにおいて、良好な変化が認められ、当施設の「通いの場」が介護予防に繋がることが明らかとなった。



【発表者】清流ぷらす 施設長
リハビリ統括マネージャー
坪内 貴志

開設3年半となる当施設には、毎日約20～25名の方が通われ、元気に運動やおしゃべりを楽しんでいらっしやいます。清光会は、皆様に質の高い医療と介護サービスを提供するだけでなく、「清流ぷらす」の運営を通じて、疾病予防や介護予防にも積極的に取り組んでいます。今後も地域の方々が『心身ともに健康に暮らしていただくための楽しい通いの場』として、地域に貢献してまいります。

巣南リハビリセンター ボランティアさん大募集!(傾聴、軽作業、レクリエーション等、内容は幅広く募集)

詳細はお気軽にご連絡ください。TEL:058-328-3387 担当:森/佐々

2025年3月

救急トリアージ訓練を実施しました

「救急トリアージ訓練」とは、災害や事故などで多数の傷病者が同時に発生した際に、傷病者の緊急度や重症度に応じて治療の優先順位を判断し、迅速かつ的確に対応するための訓練です。今回は近隣で観光バスの交通事故が発生、軽傷～重症まで20名の患者受け入れを想定に訓練を実施しました。今後も継続的に取り組んでいきます。



2025年4月

「つながる清流カフェ」開催中!

昨年10月スタートした本院が運営する地域交流カフェ。偶数月開催で、毎回80名を超える方々に参加いただいています。イベントのほか、参加することが楽しい、いろんな方と交流できて楽しいという声もいただき、カフェの目的である「つながりの場」になっています。これからも笑顔になれる場所づくりに取り組んでいきます。ぜひご来場ください。



歯科口腔外科コラム

記事執筆 歯科口腔外科医長 井上 敬介 先生
 歯科口腔外科専門医

第1回 抜歯しても大丈夫?血液サラサラのあなたへ

血液をサラサラにするお薬(抗血栓薬)を飲んでいたたり、血液透析をしていたりすると、抜歯などの歯の治療で「血が止まりにくくなるのでは?」と心配になる方が多いと思います。中には自己判断で薬を中断して来院される方もいらっしゃいます。以前は、一時的にお薬を休むこともありましたが、今はお薬を続けたまま治療するのが基本とされています。不安はあると思いますが、自己判断での休薬は控えるようにしてください。(抗血栓療法患者の抜歯に関するガイドライン 2020年版)

お薬を休まない理由

抗血栓薬を急にやめると、血が固まりやすくなり、脳梗塞や心筋梗塞のリスクが上がります。これらの病気の方がずっと危険なので、通常はお薬を飲み続けたまま治療を行います。しかし、安

全に治療を終えるために、十分な備えをもって治療にあたる必要があります。

出血しないための対策

1. 止血を助ける薬や材料の使用
2. 縫合して傷をふさぐ
3. 止血用の口腔内装置の作製
4. 採血結果の確認をしておく

“備えあれば患いなし”です!ただし、複数の抗血栓薬を服用している患者さんや、出血リスクが高い抜歯では、医科と歯科が連携して治療にあたる必要がありますので、出血や抜歯に対して不安がありましたらお気軽にご相談ください。



【歯科・歯科口腔外科・小児歯科】

外来 月～金曜日 9:00～12:30 / 14:00～17:30 ※土日祝日休み
 TEL.058-239-8255(歯科直通)

歯科口腔外科
 ウェブサイト

